

山麓探偵団通信

7月号

野鳥の巣立ち、草木の結実、小動物の夏毛を目にして、そろそろ夏支度をと腰をあげれば、巷ですでにタンクトップの真っ盛り。あわてて半袖などを引っ張り出して、富士山麓のみじかい夏に、飛び乗ったところです。

さて、六月の野外一泊探偵団は、梅雨時だというのに、さいわい天候に恵まれ、戸高雅史さんを団長に、八名の参加申し込みがあり、キャンセルなしでした。ふたりの留守番団員に見送られ、大荷物を背負って、元気に出発。

奥丹沢の丹沢湖最上流部の沢に一泊しました。

今回は「風と沢の音、そして生命の歓喜」というテーマです。普段は自然から受ける情報に対し、知識や智恵、経験などを介して理解し行動しますが、そのスイッチを外し、自然の中で感じる一つひとつの細胞の反応を大切にしようと思いました。

出発前、林の中で身体全体を緩め、センサーの精度を高めました。目的地に到着すると、沢での水浴びや火を囲み楽器を奏で、静かに座る者、釣り糸を垂れる者など、それぞれの過ごし方を満喫して、全員笑顔で里にもどりました。

▼参加者の感想文

山麓探偵団のイベント「風と沢の音、そして生命の歓喜」に参加した。

登山を趣味としている私にとって、戸高さんと過ごせたこの時間はとても貴重であった。

今回の戸高さんが伝えたいことの「身体を緩ませる」、「ゆだねる」という話に、私が山に登る理由の一つの「勘を鈍らせたくない」と少し重なっている部分があるのかな? とぼんやり考えていた。



「勘を...」はリスク回避の為である。「道に迷わないように」、「体温を落とさないように」、「動けなくならないように」等、違和感を感じたら客観的に状況を観察して正しい方へ進み直す。

そんな「違和感」を感じる為のトレーニングを登山の中で行っている。その行為は間違っていないと思っている。



でもそれはマイナスをゼロにするだけである。戸高さんは「緩ませ、ゆだねて」音楽を創っている、プラスなのだ。

「私はまだプラスにできていないな...」と思ったが、「自然農の畑にいると気持ちが良いんだよね?」と少し前の会話での私の発言を、私に返してくれたHさんの一言で気がついた。

私もプラス側に感じていたことがあった。自分で口にして、気づいていなかった自分が、少し恥ずかしかった。正に目からウロコであった。これから「緩ませ、ゆだねて」良いものを感じていきたい。

そんな「気づき」があったイベントを引っ張ってくれた戸高さん、山麓探偵団の皆さんに心からありがとう。(T・H)

◇ 七月の探偵団活動ご案内

昆虫シリーズ第四回、今夏も埼玉大学教授の林正美先生を団長に、山中湖畔大平山周辺の昆虫たちの暮らしを観察します。昨夏と同じ時期の同じ場所で、はたして昆虫の数や種類などが、どう変化しているか楽しみですね。

- 一緒に見つけにいきましょう!
- 七月二十一日(土)
- 集合 朝9時30分
- 場所 朝ペンション・まりも
- 参加費 2300円(ガイド代、保険代を含む)
- 持ち物 昼食、雨具、マイカッブ、敷物、双眼鏡、虫網、昆虫を入れる容器、ポケット図鑑などは任意。

○申し込み・問い合わせは三日前までに、電話かメールでお願いします。

なお、八月の探偵団はお休みです。

発行 山麓探偵団 事務局
山梨県山中湖村平野一六九八
電話 〇五五五・六五・七〇二三